

主の降誕(日中のミサ)の説教

金 大烈 神父 2008年12月25日(木)

《主の降誕、おめでとうございます》

救世軍という言葉をご存知ですね。プロテスタントの一派です。救世軍の人々は大体、クリスマスが近づくと大きな街の駅前や大きなデパートの前に立ち、鐘を鳴らしながら慈善鍋を置きます。そして人々に施しを求めます。

ある救世軍の人が、とても大きな街で、日が落ちる前から慈善鍋を準備し、そこに立って人々が来るのを待ちました。そして、鐘を鳴らしながら「貧しい人々のために施しましょう」という呼びかけをしました。その時、すぐそばの5メートルくらい離れた場所に一人の僧が現れました。そして、ごみを敷き、そこにひざまずいて大きい鉢を置き、木魚を鳴らしました。救世軍の人は、気にしないように、気を奪われないように、頑張りました。でも、クリスマスなのになぜここに僧が来て、このようなことをするのか、とだんだん落ち着かなくなり腹が立ってきます。1年は365日もあるのに、なぜあの僧は、私たちの日であるクリスマスに、ここに来て木魚を鳴らしているのかとだんだん気分が悪くなってきました。そして、イエス様、今日はよい日ですから我慢します。よい人々がたくさんよいことをするように祈ります と一生懸命に鐘を鳴らしました。人々の中には、救世軍の慈善鍋にお金を入れる人もいたし、僧の鉢に入れる人もいました。何時間かの後、自分の鍋と僧の鉢とを見比べてみました。そして「あの僧は、なぜ今日来たのだろうか。自分たちをいじめようとしているのだろうか。妨げようとしているのだろうか。」と、とても不安な気持ちになりながら更に頑張りました。ある程度の時間になって片付けようとしていると、僧が前に来て「先生、メリークリスマス！今日はお疲れさまでした。」と言い、自分が集めた全てのお金を慈善鍋に入れました。それを見た救世軍の牧師さんは、どのような気持ちになったのでしょうか。本当に恥ずかしかったことでしょうか。「"クリスマスというのは、結局、こういうことを願うイエス様を迎えることだ"と悟った」と後で記事を書いているのを私が読みました。これは、ある国で実際にあった話です。

この話を讀んだ時、クリスマスに皆様と分かちあいたいと思いました。美しい話ですよね。その牧師さんはどのくらいイライラしたのでしょうか。その僧も、遠いところへ行って集めてから慈善鍋に入れば両方が気持ちよくなれるのに、腹を立てさせてからそのようにしたのは、どういうことだったのでしょうか。(皆笑う)

たぶん、クリスマスを迎えて、宗教は違うけれど、僧の立場として協力してあげたいという気持ちがあったのでしょうか。寒い中、一緒にひざまずいて、人々に慈悲を求めた僧の心を私たちにも悟らせてくれる、そういう話ではないかと思いました。

皆様に昨日も紹介させていただいたのですが、23日の夜、12:30くらいに私が聖堂に行ってみるとそこに匿名のサンタクロースからのプレゼントがありました。彼はカトリックの信者ではありませんでした。

そのように、見えないところで、ある意味では信者よりもっと信者らしく生活をしている人が結構いらっしやいます。カトリックの信者は、そのような方々に、そういう行いという点では、負けてはいけないと思います。皆様は、もっと信者らしい温かい心を見せて、分かちあわなければなりません。この頃は不景気で、いろいろな人々が不安を持っています。実際に困難に陥っている人々も結構います。特にこの太田には、外国から来られたたくさんの方々があります。そういう方々が、ある意味で一番辛いクリスマスを迎えているのではないかと思います。そのように弱い立場になってしまった人々のために心を配る日こそクリスマスではないかと思います。

皆様、今日、この祭壇の前に裸の乳飲み子の姿でいらっしやる幼子イエス様の前で一つの意識を持ちましょう。人間が幸せを感じるためには、方法はただ一つしかないと思います。それは生きがいを感じることです。生きがいは、やりがいから生じます。本当に心をこめて行ったことにより、誰かが

生かされた、誰かが助けられた、誰かが喜んだ、そのようなことによって生まれる喜びより大きな喜びはないと思います。イエス様がこの世に来られた一番大きな理由は、「分かち合う力」を教えたいということでした。傷みは分かち合えば少なくなります。喜びは分かち合えば大きくなります。皆様もよく分かっていると思います。それなのに、なかなか実行ができないのです。そういう意味で、私たちは毎日自分のことを振り返りながら練習をしなければなりません。その一番素晴らしい練習は、やはり祈ることです。

今日ここにいらっしゃる皆様は、本当に幸せだと思います。とても残念なことです、日本ではまだ、他の国のようにクリスマスが休日になっていません。仕事をしている人達はこのミサに与ることができません。それは、私たちクリスチャンの積極的な面が足りないからではないかと思います。もしプロテスタントとカトリックの信者の皆さんが、国民の声として自分達の権利をはっきり知らせられれば、ずっと前に、クリスマスを休日にするのができたのではないかと思います。

とにかく、クリスマスを迎えている私たちは、新しい1年のために、もう一回クリスマスの意味を意識することが必要です。昨日のミサで、「十字架にかけられている姿のイエス様の死を考えなければ絶対クリスマスの意味は分からない」と申し上げました。

それは、「イエス様が見せてくださった生き方に私たちも習います」という告白が必要だということです。「あなたが見せてくださったその生き方を通して、まことの人生の意味を悟りました」という告白があれば、今日の降誕祭がもっともっと意味深く私たちの心に残るのではないかと思います。

皆様、今日だけではありません。毎日クリスマスのことを思い出してください。そうすれば必ず十字架にかけられるイエス様の傷みが皆様の頭に浮かぶと思います。

もう一度、おめでとうございます。